

平成 27 年 8 月 21 日

各 位

会 社 名 黒田電気株式会社

代 表 者 取締役兼代表執行役社長 細川 浩一

(コード番号 7517 東証第一部)

問合せ先 業務執行役員 経営企画本部長 持丸 守

(電話番号 03-5764-5500)

臨時株主総会を終えて

本日開催された当社臨時株主総会においては、多数の株主の方々から力強いご支持をいただき、誠にありがとうございました。当社は持続的な企業価値の向上をはかり、すべてのステークホルダーの皆様の共同の利益の維持・向上を実現すべく、役員・当社グループ従業員一丸となって今後とも社業に勤しんでまいりますので、引き続き、ご支援・ご鞭撻方よろしくお願い申し上げます。

さて、当社が、平成 23 年に発表した中期経営計画は、ほぼ予定通りに達成することができました。

このような成長を実現することができましたのも、長年に亘り当社を応援して下さいいる株主の皆様、お取引先の皆様、そして当社グループ従業員のおかげであり、ここに改めまして御礼申し上げます。

本年 7 月 31 日に発表いたしました当社平成 28 年 3 月期第 1 四半期の決算短信でもご報告いたしましたとおり、当期におきましても、当社業績の堅調な推移は継続しております。

すなわち、売上高は前年同期比 25.4%増の 816 億 29 百万円、営業利益は同 26.2%増の 22 億 74 百万円、経常利益は同 28.0%増の 23 億 60 百万円、四半期純利益は同 8.2%増の 15 億 29 百万円となっております。

引き続き、本年 5 月に発表した新中期経営計画（3 カ年）の達成に向け、堅実に、成長を続けて参る所存です。

当社は、昭和 20 年の創業以来、製造・加工機能をも備えた独立系エレクトロニクス商社として成長し、一步ずつ確実な前進を続けて参りました。当社のような製造・加工機能を有するエレクトロニクス商社という立ち位置は、激動のエレクトロニクス業界において、世界的に見てもユニークなものとして、内外のお取引先様はもちろん、当社の企業価値の本質をご理解いただいている株主の皆様からも強いご期待をいただいております。

しかし、当社を取り巻くエレクトロニクス業界では、世界的に見ても、技術開発競争がより一層激しく、また、製品・商品のライフサイクルも年々短くなっています。そのような環境下においては、的確に時代を読み、次の一手を考え、取扱い製品を選び、お取引先様との良好な関係を構築しながら成長していくことが不可欠です。当社はこのような事業環境下にあっても、引き続き、ユニークな立ち位置を守りつつ、また一方で、正確な情報を慎重に検討した結果、相応しいと考えた場合には、大胆に、かつ迅速に当社発展のための行動を執っていくことをお誓い申し上げます。

例えば、既に新中期経営計画においてお伝えいたしましたとおり、当社は、既存の中核事業を拡大していくための努力は勿論、高機能材料やヘルスケアなどの新分野においても一定の実績を残しはじめており、今後も、これらの新分野への挑戦を加速させていくこととしています。

また、時代の流れを読みながら、さらなる新分野の開拓も進めて参ります。当然、その中には M&A や事業提携といった行動も選択肢に含まれておりますが、当社にとって、M&A や事業提携は、手段であって目的ではありません。むしろ、安易な事業規模の拡大はいたずらにリスクを増加させかねないと考えております。当社にとって M&A や事業提携は、当社の発展につながるからこそ実施するものであり、一定の期間に一定の予算を予め割り、これを使い切ることを前提として検討すべきものではないと考えております。

その一方、本年 6 月より運用が開始されましたコーポレートガバナンス・コードに謳われているそれぞれの基本原則につきまして、当社といたしましては、最大限これらを遵守し、かつ適切に実践することにより、中長期的な企業価値の向上に繋がりたいと考えています。

株主の皆様におかれましては、今後とも、これまでの当社の取組み、当社グループ従業員の努力、さらには長年のお取引先様との関係をご高察の上、引き続き、ご支援・ご協力を賜りますようお願い申し上げます。

以上